



深刻な都市のコミュニティ喪失

農業の担い手の減少は顕著で、農村の活力低下も著しい。こうした農村集落機能の衰退を阻止すべく農村RMO、すなわち農村型地域運営組織 (Region Management Organization) づくりが推進されている。そもそもRMOの旗を振るのは総務省であり、農村地域については農村RMOとして農水省が所管する。総務省の報告によれば、この地域運営組織RMOの形成数は増加しているものの、「農」に関する活動はわずかにとどまっている、のが現状だとする▼筆者は東京23区の一つに隣接するN市に平日、山梨県Y市に週末、と二地域居住する。山梨では祭りの担い手の減少や、竹林が広がって荒廃化した河川敷が象徴するように、活力の低下は著しい。これに対し、N市は人口が増加し、自治会管内では1軒家を処分すると、そこに2、3軒の家が建ち、若い人と子供が増え、若返りは顕著である▼ところが、である。コロナの影響が大きくもあるが、外で遊ぶ子どもたちを見かけることはすっかり減り、表札をつけない家が増えるなど、地域コミュニティは崩壊状態にある。かろうじてわが自治会は会員数をキープしてはいるものの、自治会活動に参画する人は減り、役員のなり手がなく、悩みの種だ▼こうした状況を踏まえて、市もRMO推進のいっかんとして、市内を4区域に分けて「地域協力ネットワーク」の設立を後押しし、小学校区域での連携によって自治会等の活動をカバーする方向で対策を講じてきた。ところがこの地域協力ネットワークも役員のみならず、活動にエンジンがかからない状態が続く▼農村は地縁が薄れてきてはいるが、都市はもとも地縁が乏しい中でのコミュニティ喪失。万が一の場合のリスクは農村の比ではない。目先、地震等大災害が発生しないことを祈るばかりだ。

(土着菌)